

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25360022

研究課題名(和文) 中国特特色社会主義の多角的研究

研究課題名(英文) A Multi-dimensional Study of Socialism with Chinese Characteristics

研究代表者

大西 広 (ONISHI, HIROSHI)

慶應義塾大学・経済学部・教授

研究者番号：50176955

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の多くの部分は研究代表者・分担者が所属する社会主義理論学会の協力を得た。特に中国の研究者との交流を重視し、2013年12月に12名の中国人研究者を招き、「中国特特色社会主義の行方と理論問題」の主題で第四回日中社会主義フォーラムを開催した。2015年4月には中国人研究者1名を招き講演会「『さあ「資本論」を読んでみよう』について」を開催した。2016年3月には四名の中国人研究者を招き、「中国社会主義の多様性」を主題に第五回日中社会主義フォーラムを開催した。いずれも社会主義理論学会と当科研費プロジェクトの共催である。参加者・集会報告などはいずれも社会主義理論学会HPに掲載されている。

研究成果の概要(英文)：Because all of the members of this project belong to Society for Socialism Theory, this society has become a platform for this study, and made a series of chances of joint seminars with Chinese researchers of this field of study. The 4th Japan-China Forum of Socialism in 2013 invited 12 Chinese researchers, a special research meeting in 2015 invited one Chinese researcher, and the 5th Japan-Chine Forum of Socialism invited 4 Chinese researchers. All of these seminars are co-organized by Society for Socialism Theory and this Kakenhi-project. The details of these seminars are shown in the Home-page of Society for Socialism Theory.

研究分野：経済学

キーワード：中国 社会主義 特特色社会主義 保守派 毛沢東

1. 研究開始当初の背景

(1) 総説

中華人民共和国は、1979年以来、高い経済成長を遂げ、2010年にはGDPで日本を追い越し世界第二位となるに至っている。近年の日本でも中国に関する研究は数多いが、中国が今日も社会主義を掲げているにもかかわらず、社会主義の観点から現代の中国を分析した研究は非常に少なかった。

(2) 中国特色社会主義という語彙の由来

中国共産党は1978年12月の十一期三中全会で、経済建設を中心的任務とする路線へと転換した。中国特色社会主義の模索は、この時から始まっている。1982年9月の中国共産党十二回大会で、鄧小平は中国がめざすべき社会主義体制を「中国の特色をもった社会主義」(有中国特色的社会主義)と呼んだ。これ以後、1992年の中国共産党第14回大会では「中国特色をもった社会主義」(有中国特色社会主義)となり、2002年の中国共産党第16回大会では「中国特色社会主義」(中国特色社会主義)となり、現在に至っている。

(3) 中国特色社会主義の内容と現段階の特徴

中国特色社会主義の具体的内容は、鄧小平らが繰り返し語っている。市場の容認も含む経済成長重視と、共産党の指導性や社会主義の道などの堅持である。

しかし、格差拡大など諸矛盾の拡大に伴い、中国国内では社会主義の要素をより弱めることにより社会発展を実現しようとする勢力と社会主義の要素を保持し強めることにより社会の問題を解決しようとする勢力の対立が生じている。2012年の薄熙来事件は、その端的な表れであった。

(4) 中国特色社会主義と社会主義の関係

中国特色社会主義が、伝統的な社会主義観

とかなり異質なものであることは、中国共産党も認めている。中国特色社会主義を社会主義との関係で整理すれば、次の三点となるであろう。

社会主義の初期段階

これは、中国共産党が主張しているものである。中国は遅れた農業国から社会主義を樹立しなければならなかったため、まだ初期段階にあり、経済を成長させることが最も重要であり、マルクスなど社会主義の理論家が提唱した社会主義像を完全には実行できない。

新民主主義段階

1952年の新民主主義から社会主義への転換が早すぎた、中国の現段階は新民主主義だというものである。中国国内の一部の学者が唱えている。研究代表者の大西広が主張する「共産党が指導する資本主義」「社会主義をめざす資本主義」も、新民主主義段階論の範疇に入ろう。

開発独裁

日本など中国以外の国のかんりの学者が提唱している考えである。中国の現状は資本主義であるだけでなく、社会主義に向かう要素もない。中国共産党政権は経済をある段階まで発展させた後、ある時期により本格的な資本主義政権に置き換えられることになる。

2. 研究の目的

本研究は中国が掲げる「中国特色社会主義」に着目し、経済・思想・文学芸術・民族問題など多方面からのアプローチを試み、それによって中国特色社会主義とは何か、それは一般に言われている社会主義とどこが共通しどこが異なっているのか、社会主義を掲げるために何を守ろうとし何を否定しようとしているのか、を明らかにし、それに基づいて現代中国の特質を解明することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 研究目的でも述べたように、中国特色社会主義を社会主義に重点を置いて分析した。

(2) 研究代表者、研究分担者がいずれも会員である社会主義理論学会を通して共同研究を実行した。中国研究者でもある大西広、瀬戸宏と、中国研究者ではない(中国語を解しない)マルクス経済学、マルクス主義哲学研究者である松井暁、田上孝一の討論を重視し、円滑な実行に努めた。経済研究(大西、松井)、文学芸術研究(瀬戸)、哲学研究(田上)など、研究題目にもある「多角的研究」を重視した。

(3) 社会主義理論学会が2008年以来おこなっている南京師範大学など中国の大学に所属する社会主義理論研究者との学術交流を重視し、積極的に参加した。

4. 研究成果

(1) 第四回日中社会主義フォーラムフォーラムを「中国特色社会主義の行方と理論問題」(中国特色社会主義去向和理論問題)を主題に、2013年12月21日、22日両日慶応大学三田校舎で開催した。中国から12名、日本側から研究代表者・分担者ら8名、計20名の研究者が報告した。報告内容は、中国特色社会主義の基本問題、中国特色社会主義と国家論、中国特色社会主義と哲学、中国特色社会主義の政治体制、経済理論・グローバル化からみた中国特色社会主義、中国特色社会主義と地域・農村問題、中国特色社会主義の歴史的考察に大別できる。このフォーラムには、傍聴者を含めて約60名の参加者があった。報告には討論時間を設け、傍聴者も討論には参加できた。中国特色社会主義が内包する多様

な問題が明らかになり、研究テーマ「中国特色社会主義の多角的研究」にふさわしい内容となった。討論を円滑に進めるため、報告者には事前に論文提出を求め、中国側論文は日本語に、日本側論文は中国語に翻訳し、日中二カ国語で予稿集を作成した。フォーラムのプログラムと報告予稿集の全文は、社会主義理論学会HPに掲載されている。

(2) 『さあ「資本論」を読んでみよう』著者余斌氏(中国社会科学院マルクス主義研究院研究員)を招き、社会主義理論学会研究会の一環として2015年4月26日に慶應義塾大学三田校舎で講演会をおこなった。『さあ「資本論」を読んでみよう』(角田史幸、荘巖訳、こぶし書房、中国語原題《十分鐘讀懂的資本論》)は、マルクス『資本論』の解説であると同時に、資本論を用いて現在の中国社会が抱える諸問題を批判的に分析したもので、中国国内で話題になった書籍である。余斌氏の講演と質疑応答を通して、現在の中国すなわち中国特色社会主義が抱える問題点のかなりの部分が、資本主義社会と同様のものであることが明らかになった。講演会には48名の参加者があり、盛会であった。講演会内容は、『社会主義理論学会会報』第72号(2015年10月15日、社会主義理論学会HP掲載)に詳しく報告されている。

(3) 第五回日中社会主義フォーラムを「中国社会主義の多様性」(中国社会主義的多様性)を主題に、2016年3月5日、6日両日慶応大学三田校舎で開催した。中国から、北京大学、中国人民大学、南京師範大学、中国社会科学院マルクス主義研究院の研究者4名を招き、日本側から研究代表

者、研究分担者全員と社会主義理論学会内での公募に応じた2名計6名の研究者が報告した。傍聴者を含めた参加者数は二日間で延べ100名以上に達した。中国側研究者の招聘に当たっては、フォーラムテーマ「中国社会主義の多様性」に基づき、多様な見解の持ち主を招聘することに努めた。今回の報告者数は二年前の第四回に比べて半減したが、そのため一人あたりの発言・討論時間を多く取ることができた。中国側の報告は、現在の中国社会主義体制（中国特色社会主義）に批判的見解を持つ者と全体として肯定的見解を持つ者に二分され、討論時間では中国人研究者の間で率直な意見交換が交わされることもあった。フォーラムでの討論はたいへん活発で、「中国社会主義の多様性」をかなり深く反映することができた。第五回フォーラムのプログラムおよび予稿集全文は、社会主義理論学会HPに掲載してある。

(4) このほか、研究代表者・分担者は研究課題に沿った個人研究を行ない、別項の論文等を発表した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計13件)

瀬戸宏、呉晗と『海瑞罷官』 - 『海瑞罷官』の執筆意図、(京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター研究報告) 現代中国文化の深層構造、査読有り、2015、pp.257-275

瀬戸宏、中国の2015年政府活動報告と経済『新常态』、社会主義、査読無、no.635、2015、pp.88-92

瀬戸宏、中国マルクス主義研究院訪日団との理論交流、社会主義、査読無、no.642、2015、pp.76-83

瀬戸宏、中国民主化論の陥穽、葦牙、査読無、no.41、2015、pp.140-149

大西広、香港は「雨伞革命」で「財界天国」を辞められるか、季刊中国、査読無、

no.120、2015、pp.47-50

大西広、中国：社会主義をめざす資本主義、季刊中国、査読無、no.25、2014、pp.164-174

大西広、金江亮、「人口大国の時代」とマルクス派最適成長論、三田学会雑誌、査読無、vol.107、no.3、2014、pp.139-156

大西広、内陸部の経済成長が生む「怒れるウイグル族」、エコノミスト、査読無、2014年6月3日号、2014、pp.89-91

大西広、山本恒人、対談 中国経済をどうみるか-社会主義をめざす資本主義? 資本主義をめざす社会主義?、季刊中国、査読無、no.118、2014、pp.3-29

瀬戸宏、中国特色社会主義をどう考えるか-社会主義の初期段階、新民主主義論、開発独裁、情況、査読無、2014年5・6月号、2014、pp.208-209

田上孝二、毛沢東の矛盾論について、東京電機大学総合文化研究、査読無、no.12、2014、pp.251-255

大西広、和平解決釣魚島問題的思考、日本研究、査読無、no.144、2013、pp.37-40

大西広、尖閣領有に関する外務省見解の国際法的検討、季刊中国、査読無、no.113、2013、pp.24-35

〔学会発表〕(計15件)

Satoshi Matsui, Marxism and Three Types of Ethics, Telos Conference, 2016.1.16, New York(USA)

Hiroshi Onishi, When Will China Become a Zero-growth Economy?, Asian Development Bank Institute, 2015.11.25-26, Asian Development Bank Institute(東京都・千代田区)

大西広、Piketty's r>g caused by Labor Exploitation, 経済理論学会、2015.11.21-22、一橋大学(東京都・国立市)

Satoshi Matsui, Marxism and Justice, 経済理論学会、2015.11.21-22、一橋大学(東京都・国立市)

大西広、中国経済のマルクス派最適成長モデル、経済統計学会関西支部、2015.11.7-8、立教大学(東京都・豊島区)

大西広、中国経済のマルクス派最適成長モデル、基礎経済科学研究所、2015-9.29-30、関西大学(大阪府・吹田市)

大西広、社会民主主義、無政府主義、反成長主義、平和主義、民族主義とマルクス主義、社会主義理論学会、2015.7.5、慶應義塾大学(東京都・港区)

Satoshi Matsui, Socialism as a Development of Liberalism, World Association for Political Economy, 2015.6.19-21, Johannesburg(South Africa)

Hiroshi Onishi, Non-western Marxist

Tradition in the North-east Asia,
World Association for Political
Economy, 2015.6.19-21,
Johannesburg(South Africa)

大西広、中国の政治改革について、社会
主義理論学会、2014.4.29、慶應義塾大学
(東京都・港区)

松井暁、自由主義と社会主義の規範理論、
ポスト・マルクス研究会、2014.3.28、専
修大学(東京都・千代田区)

松井暁、自由主義と社会主義の規範理論、
社会主義理論学会、2014.2.9、慶應義塾
大学(東京都・港区)

松井暁、自由主義と社会主義の規範理論、
関西唯物論研究会、2014.1.25、守口市市
民会館(大阪府・守口市)

大西広、尖閣領有に関する外務省見解の
国際法的検討、現代中国学会、
2013.10.26-27、福岡大学(福岡県・福岡
市)

瀬戸宏、上海業余実験劇団「ロミオとジ
ュリエット」公演をめぐって、現代中国
学会、2013.10.26-27、福岡大学(福岡県・
福岡市)

〔図書〕(計8件)

瀬戸宏、松本工房、中国のシェイクスピア、2016、320

田上孝一、本の泉社、マルクス疎外論の
視座、2015、160

大西広、慶應義塾大学出版会、マルクス
経済学(第2版)、2015、294

大西広 他、桜井書店、経済学と経済教
育の未来、2015、305(91-102)

大西広、孫世強、中国经济出版社、馬克
思経済学、2014、237(全編共著)

大西広 他、花伝社、成長国家から成熟
社会へ、2014、258(7-48, 243-258)

大西広 他、めこん、中国百科、2013、
374(26-55, 57-81)

田上孝一、時潮社、マルクス疎外論の諸
相、2013、252

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等 特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大西 広 (ONISHI, Hiroshi)
慶應義塾大学・経済学部・教授
研究者番号: 50176955

(2) 研究分担者

田上 孝一 (TAGAMI, Koichi)
立正大学・文学部・研究員
研究者番号: 70646603

瀬戸 宏 (SETO, Hiroshi)
摂南大学・外国語学部・教授
研究者番号: 80187864

松井 暁 (MATSUI, Satoshi)
専修大学・経済学部・教授
研究者番号: 90238931

(3) 連携研究者

なし